

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月24日(水)

《殉教は正しさを守る心》

主の平和

今日は、ベトナムの117人の殉教者を祝う記念日です。キリスト教の歴史を振り返ってみると、どの国でも大体が殉教の歴史から始まります。ローマだけではなく、日本の教会の歴史を見てもやはり殉教から始まっています。韓国も同じです。ベトナムも、他の国々も殉教から始まっています。

それではなぜ殉教から、教会が、キリスト教の信仰が始まるのでしょうか。それはどの地でもその当時、殉教が起きる前から権力を振るっている者にとっては、キリスト教の信仰が自分達の既得権を揺り動かす恐れは感じていたからです。そして、実際にキリスト教の信仰は権力者達はその権力を保つのに妨げになったのは確かなことです。だから教会を無くさなければならぬ立場だったんでしょう。

さあ、今は実際に私達信仰者が、ひっぱられて殺されるとか、肉体的に暴力を受ける事柄は無くなり、そういう時代はもう過ぎ去ったかも知れません。しかし、今の時代で「殉教の霊性、殉教の精神」と言えばそれはどのように解釈すればいいのでしょうか。具体的に刀を振るう者もないし、「殉教の精神で行きましょう」と言われたら、どのような気持ちを持つべきでしょうか。

殉教という言葉の元の意味は何でしょうか。それは、“信仰のために自分を捧げること”です。“投身すること”です。“投げること”です。“死ぬことをも恐れずに信仰にすべてを委ねます”という気持ちで自分の全てのことを投げることです。

昔々、その殉教された色々な国の殉教者たちは恐れがなかったわけではありません。当然に怖かったでしょう。しかしその当時、正しくないことを訴えた心によって殉教になったのでしょうか。

今の時代はどうでしょうか。もちろん積極的な殉教の精神とちょっと消極的な殉教の精神があります。私達はこの二つ側面を、皆、自分の身につけなければならないと思います。今の時代の殉教とは何でしょうか。結局、正しくないことに「これは正しくない」と言える力ではないでしょうか。そして消極的な意味としては「これは正しくないから私は絶対やらない」と言う気持ちではないでしょうか。この殉教の精神は、家庭の中でも友達の間でも教会の共同体の中でも社会でも、一人一人が持たなければならない精神だと思います。

こういうことがある時に、私たちはどうにか殉教の生活が出来るのではないかと思います。

今の時代も形は違って権力を振るう者はどこにでもいます。そして権力者達と言われている者はいつも自分が中心になって、自分から世界が、社会が、共同体が始まらなければ気がすまないタイプです。そのような者達に自由に、かってに、治めさせないために私たちは頑張らなければなりません。だからと言って具体的にデモでもしましょうという意味ではありませんよ。私達が立っている場所か

ら本当に正しさを求める心で動きましようということです。もう一度申し上げますと“ 殉教は正しさを守る心です”。

皆様、今日の福音を読んで「どうすれば私達は殉教の精神で生きることが出来るか、なぜ教会は殉教の精神を強調しているのか」それをもう一回振り返ってみて、そして、「私もそのような生き方しよう」と恵みを求めてください。

この精神は自分の意思としては持てないものです。これは恵です。神様が許して下さったから、殉教の刀も殉教の色々な恐れも乗り越えられたと思います。誰でも正しさに向いている心は持っていると思います。ただそれが具体化するかどうかの問題です。

結局私達は、その正しさに働こうと、そして正しさの中に生きようと、その気持ちを持って祈らなくてはなりません。最後まであなたが示して下さった正しさに、その正しさがある道を歩めるようにと願う心が必要ではないかと思います。

ありがとうございました。